

巻頭言（紀要第26号の発刊に寄せて）

千葉職業能力開発短期大学校は、厚生労働省所管の工科系短期大学校として、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構により千葉市と成田市に設置しています。開校は平成3年4月で34年の歳月が経過いたしました。この間、労働局はもとより県、市町村、地域団体企業の関係機関及び企業の皆様ならびに高等学校等の教育関係者の方々のご支援の下、地域の人材育成の拠点として多くの実践技術者を輩出していることは、教職員一同誠に喜びに堪えないところであります。

当校では、主にもものづくりに関連する現場で活躍するため、専門分野の知識を学科及び実技を通じて学び、その知識を応用する技術、技術を駆使して実際の形にする技能を兼ね備えた実践技術者を育成しています。実践技術者の育成に当たっては、企業の即戦力となる技能及び技術を付与することはもちろんですが、その前に現場に即した「人をつくる」ことも重要視しています。

この紀要26号では、主に学生を交えた教員の専門分野に関する研究や授業のなかで「実践的な課題」をテーマとしており、教員自身の創造力、発想力を豊かにするだけでなく、学生にとっても問題解決力や思考力などを身につける良い機会となり、極めて有意義なことであります。こういった学生を交えた教員の実践的研究や教材作成、総合制作実習などの結果を記録にとどめるとともに、常に現場の問題に直面し、今後どのように向かい合っていくべきなのかなど、日々問題意識を持って取り組んでいる教員の教育方法や専門技術に係る研究成果を自己研鑽も含め、取りまとめたものです。こうして取りまとめられた内容は、教育訓練の日常の成果も含めた教員の専門分野における研究成果としてのみならず、本校の教育訓練活動を地域の企業や事業主団体等の方々に十分ご理解していただくことを目的に編纂したものとあります。

昨今の“ものづくり”産業社会の変化が広がる中で、企業においては、DXによる業務の効率化、生産性の向上、製品やサービスの高付加価値化が求められており、これらの実現に向けては、DXの推進に資する人材の確保・育成が重要かつ喫緊の課題となっていますが、つまるところ、DX化には企業内独自の製造ノウハウを蓄積し、更なる価値を見出していくことが重要であると言えます。こうしたノウハウや価値を見出すには、最後は本物の体験や対話を通じて、しぐさを感じ取ることができる「人」の力が左右されます。今後も当校では、教職員に学生や受講者一人ひとりの対話やしぐさを見て教育訓練の本質を見極めていくことが肝心であり、産業構造等の変化を敏感にとらえたカリキュラム改編や就職支援に取り組んで行くことが肝要であると考えます。

この紀要が一人でも多くの方々に読まれ、教育訓練の向上から発展のため、地域社会及び産業に貢献するため、また各自の飛躍の糧となるよう関係各位からの忌憚のないご意見・ご批評を頂ければ幸甚に存じます。

最後に今後においても若者に“ものづくり”のすばらしさと重要さを分かりやすく発信して行くことが当校の使命として参る所存でございますので、なお一層のご指導ご鞭撻賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2025年12月

千葉職業能力開発短期大学校
校長 紀 高志